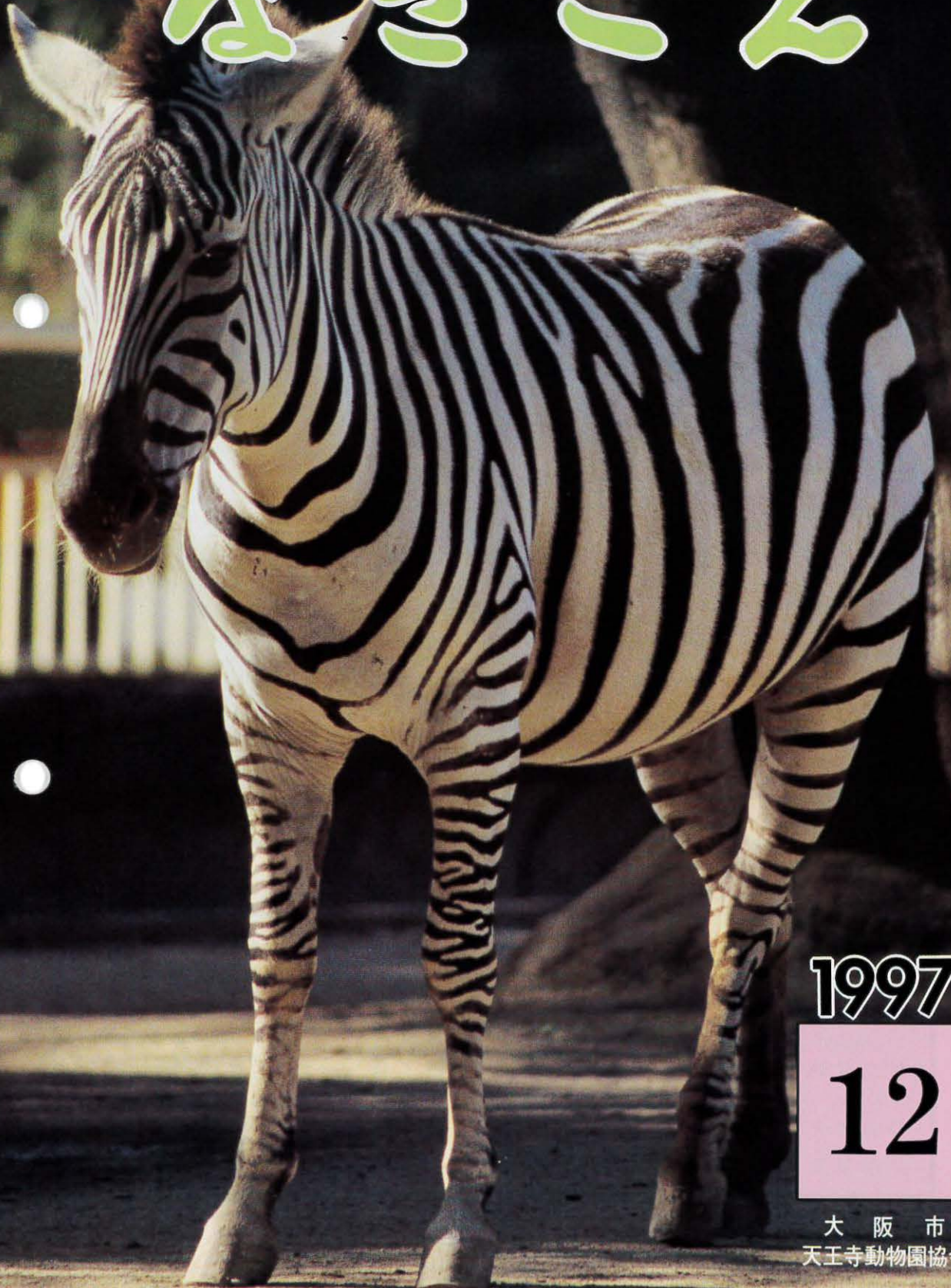




なきごえ



1997

12

大阪市
天王寺動物園協会



(撮影：竹田 正人)

- 2 — New Face レッサパンダの赤ちゃん誕生 (竹田正人)
- 3 — 動物と私 (岩光正憲)
カバーウォッチング グラントシマウマ (佐藤 紀子)
- 4 — オオタカの森を助けよう! (足立 圭子)
- 6 — アメリカの動物園見て歩き① (榎原 安昭)
- 8 — グラフZOO 秋の動物と花のフェスティバル'97 (萩原 祐二)
- 10 — 動物なんでも相談 ゾウのはなし (佐藤 紀子)
- 11 — ZOO DIARY (竹田 正人)

カバーウォッチング

グラントシマウマ

ウマ目 ウマ科

Equus burchelli bohmi

ケニアを中心とした東アフリカに生息しています。体の地色はほとんど白色、縞は蹄まであります。雨期になると一万頭もの大群になることもあります。

(撮影：佐藤 紀子)

1997年 目次

通巻377~388号 第33巻

なきごえ

388号付録

1~12は発行月

表紙		撮影者名
1 ニホンジカ	大野 尊信	7 ニホンヒキガエル 宮下 実
2 ハダダトキ	市川 久雄	8 アオハリトカゲ 萩原 裕二
3 アミメキリン	落合 正彦	9 ホオジロカンムリヅル 榎原 安昭
4 マダガスカルミドリヤモリ	西村 慶太	10 カバ 市川 久雄
5 パーバリシープ	高橋 雅之	11 アマサギ 高橋 雅之
6 ヨーロッパフラミンゴ	大野 尊信	12 グラントシマウマ 佐藤 紀子

動物と私		執筆者名
1 藤岡 等	能勢のオオサンショウウオを守る会	7 植田 安司
2 宮崎 滋乙	画家	8 駒井 古実
3 田中 豊成	アトリエタナカ経営者	9 高橋 直樹
4 横山真佐子	こどもの広場店主	10 大迫 義人
5 平松二三代	児童書専門店ひつじ書房	11 池田 敏郎
6 佐藤 彰	写真家	12 岩光 正憲
		八尾市立八尾中学校教諭
		大阪芸術大学助教授(生物学)
		ガラス工芸家
		福井県自然保護センター 主査
		地方公務員
		工芸作家

New Face		撮影者名
1 スーτριαの赤ちゃん	大野 尊信	7 クロサイ 宮下 実
2 ラマの赤ちゃん誕生	市川 久雄	8 ニホンザル 萩原 裕二
3 ギンギツネ	落合 正彦	9 アミメキリン 佐藤 紀子
4 ニューギニアアナガクビガメ	西村 慶太	10 エジプトガン 落合 正彦
5 シマウマはお見合い中	高橋 雅之	11 フサオネズミカンガルー 高橋 雅之
6 フタコブラクダ	大野 尊信	12 レッサパンダ 竹田 正人

グラフZOO		撮影者名
1 反すう動物、ウシ目の動物たち	大野 尊信	8 新人君の仕事ぶり 大野 尊信
2 日本のツル	榎原 安昭	9 サマースクールの子供たち 落合 正彦
3 カメのかたち	西村 慶太	10 新しいカバの展示場・オープンまでの足跡 高見 一利
4 動物園の動物たちのエサ	村上 勇一	11 新カバ舎完成記念講演会と裏側ウォッチング 大野 尊信
5 爬虫類生態館アイファールのカエルたち	野口 秀高	12 秋の動物と花のフェスティバル'97 萩原 裕二
6 フォーカス動物病院	森本 委利	
7 只今営巣育雛中	榎原 安昭	

特別寄稿

執筆者名

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1 岩手と牛(ベコ)の関係について | 田沼 垂希 |
| 1 牛の胃は発酵工場 | 菅原 盛幸 |
| 2 シベリアトラを追って | 福田 俊司 |
| 3 デュークの森で考えたこと 一日米格差の一つの理由 | 本田 公夫 |
| 4 南国土佐のニホンカモシカ | 中西 安男 |
| 5 動物園は命の感動を育む場 | 沢井 泰子 |
| 6 地味な哺乳動物・ニホンアナグマ | 田中 浩 |
| 7 希少淡水魚オヤニラミを守る | 酒井 達哉 |
| 8 庭に来た狸と友達になって | 松岡 節 |
| 9 コハクチョウは農地で何をしているのか | 長野 義春 |
| 10 ウガンダのカバの野生 | 宮嶋 泰彦 |
| 11 あなたは関心がありますか? 希少動物の種の保存 | 楠 比呂志 |
| 12 オオタカの森を助けよう! | 足立 圭子 |

連載

執筆者名

執筆者名

◆キーパーズアイ◆

- | | |
|--|-------|
| 1 ①食えるうちに食べ!
②クロサイファンクラブって何なんだ! | 早川 篤 |
| 6 ①たいへん怒っているアライグマさんのはなし
②思い出、ニョロニョロ | 早川 篤 |
| 11 カバの引越し | 中山 宏幸 |

◆動物なんでも相談◆

- | | |
|--|-------|
| 2 ①ツルは千年、カメは万年生きると聞きましたがほんとうですか
②コウモリはどうして暗闇の中を飛び、エサを取ることができるのですか | 村上 勇一 |
| 7 鳥は生まれてすぐ羽毛のあるもの
ないものがありますか何故ですか? | 堀 眞佐子 |
| 12 ゾウのはなし | 佐藤 紀子 |

◆ケンちゃんの好きやねん動物園◆

- | | |
|--------------|------|
| 5 夜行性動物舎を訪ねて | 松葉 健 |
| 10 カバの引越し | 松葉 健 |

◆獣医室から◆

- | | |
|------------------|-------|
| 4 No.69 爬虫類の身体測定 | 高見 一利 |
| 9 No.70 麻醉の話 | 高橋 雅之 |

◆公園花だより◆

- | | |
|---------------|-------|
| 3 No.18 「春の花」 | 山元 貞幸 |
| 8 No.19 「夏の花」 | 山元 貞幸 |

飼育観察記録

執筆者名

- | | |
|------------------------|-------|
| 2 フンボルトペンギンの繁殖 | 森本 委利 |
| 9 爬虫類生態館「アイファー」でのなやみごと | 西村 慶太 |

紀行・記録・その他

執筆者名

- | | |
|------------------------|-------|
| 3 これからの動物園の展示と仕事 | 早川 篤 |
| 4 どうぶつえんのおじさんのお話の可能性 | 大野 尊信 |
| 5 動物園ぐらし雑感 | 樽本 勲 |
| 6 先端分野と動物園 | 高見 一利 |
| 7 重油汚染の海鳥たちを救え! | 竹田 正人 |
| 8 環境学習のひとつの試みとしての動物工作展 | 早川 篤 |
| 10 水中透視型の新しいカバ舎の完成 | 中川 哲男 |
| 11 日本サル紀行 | 大野 尊信 |
| 12 アメリカの動物園見て歩き(1) | 榊原 安昭 |

ZOO DIARY

竹田 正人

||||| 動物と私 |||||



岩光正憲 さん
(工芸作家)

木の仕事をしている私は、妻と子供7人、犬3匹の大所帯の主です。ここ山口は、ぐるつと山に囲まれた小さなまちで、その北端の山中に、杉林を開いて家と仕事場を建てました。植林した杉や松が多い中、クヌギ、シイ、ツバキなどの照葉樹もたくさんあり、四季の変化に富んだ美しい所です。初夏の朝は、ヒグラシのカナカナで始まります。ようやく辺りの緑がうすく浮び出し、小鳥達がさえずり始めると山々は眠りからさめ、朝日に照らされてゆっくりと背伸びをし、まるでウォーミングアップをしているようです。私は床の中で、窓越しに眺めながら、一日の仕事の段取りなど考えています。子供達は、あわただしく朝食をすませ、元気に飛び出して行きました。犬達は朝の散歩をせがんで、ワンワン吠えています。もうすっかり陽も昇り、山じゅう活気でいっぱいです。

朝の散歩は坂を少し登って、小さなダム湖を一周する20分程のコースです。途中の木や草達ともすっかり顔なじみで、友達があちこちにいるみたいで楽しいものです。また、この辺りでは小さな生きものの死骸をよく見かけます。夏の朝早くダムの水銀燈の下に行くと、きまってお腹のないカブトムシが3つ、4つ落ちています。カラスに喰べられたのでしょうか。ある時は、大きなヘビが道端で動きません。

← レッサーパンダの赤ちゃん誕生 ネコ目 アライグマ科

7月3日に当園では初めてレッサーパンダの赤ちゃんが生まれました。11月1日から一般公開を始め、名前を公募しています。左が赤ちゃん、右が母親のパンパンです。



山で暮らし始めて間もないある日、仕事場の窓の外で大騒ぎが起きました。ものすごい数の蜜蜂がブンブン飛びまわっているのです。および腰で眺める私を気にする気配もなく、狂ったように飛びまわっています。しばらくすると、なんと通気孔から仕事場の床下へ、次々と入って行くではありませんか。5年経った今では、隣りの通気孔からも出入りするようになり、天気の良い暖い日は、蜜集めに忙しそうです。突然の侵入者に驚いたものですが、考えてみれば私達の方が侵入者だったのでね。山で暮らしていると、木も鳥も虫も風も私達も皆んな一緒なんだなとつくづく思います。

(いわみつまさのり)

オオタカの森を助けよう！

足立圭子

(財)埼玉県生態系保護協会所沢支部長
おおたかの森トラスト代表

皆さんは、オオタカを見たことがありますか？ オオタカはカラス位の大ききで、羽を広げたとくろを下から見ると白と黒のシマ模様、そして背中が灰色です。カラスは街中で人間の残飯をあさり、畑では作物、森では野鳥や卵などをエサにしています。オオタカは、まとまった自然がある所に棲み、生きている野鳥やへび、時にはカラスも捕まえて食べます。オオタカの棲める自然が各地で減って、今、絶滅にひんしたり、場所によっては絶滅しています。



飛び立つオオタカのヒナ

24年前、私は所沢に引っ越してきました。現在二人の子供を持つ母親で、小さい頃から動物好きでしたが、私が地元の自然に興味を持つようになったのは、娘の通う小学校の母親学級で、学校区内にある雑木林の自然観察に参加した時です。講師の先生に雑木林の中で生きている野鳥や野草、昆虫等を教えてもらい、種類の多さとオオタカの飛ぶ姿を見て驚きました。

その雑木林は、関東平野の中央・武蔵野台地の埼玉県所沢市、狭山市、川越市、入間市、三芳町、大井町にまたがり、300年前の新田開発で人々が木を植えて作りました。その頃までの武蔵野台地はスキ野原で、冬の強い北風と深く深く井戸を掘らなければ水が出ない火山灰地特有の乾燥地帯のため稲が作れず、人は住んでいませんでした。新田開発では、土が風でさらわれないように家の周りにシラカシとケヤキ、畑の周りには茶

の木やウツギを植え、燃料の薪たきぎと村全体の水分を保つために1,000ヘクタール以上の大きな林を作りました。

人間はコナラやクヌギ、アカマツ等、背の高くなる木を植え、木に虫が来て、虫を食べる鳥や獣が、次に木ノ実を食べる鳥や獣がきて、種は糞と一緒に体の外に出され、やがて芽を出しました。こうして動物は食事をしながら種時まきをして、生きる場所を増やします。植えた種類の木だけでなく、多くの種類の植物が芽生え、タヌキ、キツネ、イノシシ、フクロウ、オオタカ等の多くの生き物が棲み始めました。人間は木を植えて林を作り、生き物達が森にしました。

昔は、森をいくつかの区画に分けて手入れをしました。木を切って蒔まにして、切り株から新しい芽を出して10年から20年で再生させる区画、木を育てて落ち葉を集めて堆肥を作る区画、アカマツの種が明るい所で芽を出す性格を利用して、松林を少しずつつまとめて伐って再生する区画です。かまどの灰や糞尿も肥料として使いました。人は、生き物達の力を借りながら、上手に森を再生してきました。

農業と一緒に育ってきたこの森に、変化が起きています。バブルで土地の価格が上がり、今、森の所有者が亡くなると、多額の相続税を支払うため売りに出されます。森を買った人は伐採して、墓地や運動場、焼却炉などを建てます。赤土がむき出しになった跡には産業廃棄物処理の大きな焼却炉が建ちました。生き物たちの棲み家が減っただけでなく、煙突からは黒い煙が出始めました。自然は心に安らぎを与えてくれますが、反対に身近に自然があると、虫が出たり落ち葉が積ったり、森の中は通れないのでぐると回れば時間が掛かり不便です。人は不便を経験し、我慢をすることで、思いやりも育ちます。

今、バラバラになった雑木林の合計440ヘクタールには、4つがいのオオタカがギリギリの状態まで棲んでいます。生態系という言葉をご



ヤマウルシを切っている女の子

存じですか？ 生態系は、いくつもの野生の生き物が複雑な仕組みでつながり、微妙なバランスで成り立っています。オオタカが生きていくために必要な生態系は、秋には紅葉、冬には葉が落ちる100ヘクタールから200ヘクタールのまとまった雑木林です。

私は、オオタカの棲む武蔵野の雑木林を助けるため、県庁や市役所に行き、雑木林が保護の対象になっているのかを調べ



枯れた松を運び出す

ました。残念なことに、「緑は大切にしなければならぬが、この地域は保護していくことは決まっていない」とのことでした。県や市を動かすには、多くの市民がまとまる必要があります。保護活動をしている団体を調べました。すると埼玉県には、生態系保護協会という、市民だけで作っている財団法人があることが分かりました。さっそく仲間に入り、どうすれば「雑木林を助けることができる」のか勉強を始めました。

ドイツでは「ビオトープ」といって、野生の生き物が棲める場所を、街の中や学校・公園などで地域の自然を呼び戻すために地元の木や草を植え、川ではコンクリートをこわして、生き物が棲めるように石や木で護岸を作っています。イギリスでは、市民がお金を出し合って、土地を買うだけでなく地域の環境を改善する「グラウンドワーク」が各地で活動しています。そこで色々な人に呼びかけて、ビオトープとグラウンドワークを合体した保護活動をするボランティア・グループを作ることになりました。でも困ったことに、この森では、ここ数年、オオタカのヒナが盗まれる事件がおきています。オオタカが棲んでいることを公表すればヒナは盗まれる。でも隠していれば特別貴重な物が棲んでいない普通の森になってしまい守ることはむずかしくなります。森がなくなれば、オオタカも生きていけなくなります。私たちは、オオタカだけを守りたいのではなく、たくさんの生き物が棲む場所を助けたいので、思い切ってオオタカが棲んでい

ることを公表して、活動をするようになりました。それがグラウンドワーク「おおたかの森トラスト」で、94年6月にスタートしました。グラウンドは地域、ワークは働く・耕す、トラストは信じて預ける、の意味です。オオタカの森をグラウンドと見立てて、生き物が棲める森の手入れをするために、森を買ったり借りたりして、皆がお金や労力や知恵を出し合います。私たちが周りの人から信用を預かるだけでなく、未来の子ども達にこの夢を託す、日本では珍しい実働型の保護活動です。

森を借りて、と簡単に言いましたが、この馬の骨かも分からない、森の手入れは体力勝負なのに細腕(?)の女性が大半、こんな得体の知れないグループに、先祖代々受け継いできた大事な雑木林を託す人は簡単には見つかりません。先ず、ゴミ拾いから始めました。これなら自分達の森がなくてもできます。ゴミはあちこちにたくさん落ちていたので、仕事なくなる心配はありません。その内、森を託させてくれる人が現れました。97年10月現在、買い取った森330㎡、託されている森(自然生態系保全協定地)は、10ヶ所5.5ヘクタールが誕生しています。作業は、汚れた河川の浄化や畑の土壌改良に使う炭焼き、生き物たちの森にする手入れ、キノコを作って虫のすみかのための虫元気作りなど、子供でも初めての人でも、楽しく参加できるように工夫をしています。



炭の掘り出し作業

悲しいことに、市民が集めたお金で森を全部買い取ることは不可能です。行政が、森を買い取るためには、多くの人が「自然を残すことに税金を使って欲しい」と言うことが必要です。きれいな空気と水と土は、誰が作っているのでしょうか。今、地球上の生き物の多くが絶滅したり、絶滅にひんしています。地域の自然は地域の人達が守る。皆さんも地域で何が起っているか、そして何かできることを探して下さい。

(あだち けいこ)

アメリカの動物園見て歩き①

最近では、アメリカの動物園を訪ねる日本の動物園の職員は珍しくもなく、今さら見学記でもないのですが、私にとっては初めてのアメリカの動物園の訪問でしたので、印象に残った施設をいくつか紹介してみたいと思います。たった9日間の短い旅でしたが、現在、天王寺動物園が進めているバイオーム展示（展示動物を生物群としてとらえ、生態系をつくるいくつかの種を動物のみならず植物までも含めて展示する方法）の参考とするためバイオーム展示の先駆的な役割を演じたシアトルのウッドランド公園動物園、極北のバイオーム展示で有名なタコマのディファイアンス岬動物園、世界一の動物園と言われているサンディエゴ動物園とその分園で郊外にある広大な敷地のサンディエゴ・ワイルドアニマルパーク、同じくサンディエゴにある海獣やペンギンなど海の動物を集めたシーワールドの5園館を駆け足で見て回りました。

最初に訪れたのはシアトルのウッドランド公園動物園で全米で最初にバイオーム展示で動物園を改造したことで知られている動物園です。シアトルはワシントン州の州都で緯度は日本付近では北海道とカラフトの間に位置しますが太平洋岸を暖流が流れているため比較的温暖で冬でも雪が積もることはあまりないとのことでした。

ゲートをくぐって、最初の展示はアフリカサバンナの展示でした。アミメキリン、シマウマ、スプリングボックを混合展示していました。あまり広いとは言えない面積なのですが、広大なサバン



サバンナの展示のキリンとシマウマ

ナを感じさせる見事な展示でした。現在、天王寺動物園が計画しているサバンナとはほぼ同等の面積であり、たいへん参考になりました。アフリカの樹木は冬の寒さに耐えられないので、形がよく似た樹木が代りに植えてあるの

ですが、見事にアフリカの風景ができていました。周囲をぐるっと一周しながらいくつかのビューポイントからサバンナを覗き見るように設計されており、カピー（サバンナに見られる岩山）を模したビューポイントでは高い位置から見るようにされていました。動物舎は展示空間に傾斜をつけ、低い位置に作ることで、観客の視界からは全く見えなくする工夫がなされていました。また、大きな樹木の回りには大きな石が並べられており、動物たちが近づきにくくして木を傷めないようにされていました。

サバンナ展示の一角にはハタオリドリとアカハシコガモなどの水鳥を展示した通り抜け形式の小さな禽舎がありました。アフリカのサバンナで木にぶら下がった巣を作るハタオリドリの巣が見られました。少し残念だったのは鳥の後ろにサバンナの風景が見えないことでした。しかし、これは仕方のないことで、逆にサバンナの方から見ればせっかく作ったサバンナの風景の中に禽舎が見えることになるのですから。しかし、別のカモの展示ではケージはなく、背景にサバンナの動物が見えるようにされていました。

同じようにキリンなどを混合飼育しているサバンナを背景にカバとパタスザルの展示が作られており、観客からは見えないように、堀や高圧電流を通したワイヤーで区切りキリンなどの展示空間と一体化して見られるようになっていました。さすがにキリン舎は高い建物なので隠すことができないため、観客の視界の外に作られていました。展示場への出入りのためには観客通路を臨時的にフェンスで仕切り横断させるようになっていました。もっとも、この方法は飼育係には不評とのことでした。

また、おなじエリアにはライオンの展示がありました。日本では擬岩で壁を作ってしまうのですが、後方はカピーの岩山とフェンスで脱出を防ぐようになっており、フェンスは

低い位置に作られているため観客からは全く見えなくなっていました。観客側は水堀で仕切られていますが、人止め柵から堀まで間を大きくとり、動物舎側が高くなるように傾斜をつけることにより、堀が全く見えないようにされていました。ガラス越しのビューポイントではガラスのすぐ前の岩にフロアヒーターが取り付けられてあり、ガラスの近くに寄ってくるようにされていました。このように、いくつかのビューポイントのいずれかからは見えるように工夫されていました。

ゴリラの展示は早くから日本に紹介されており、写真などで何度か見たことがありましたが、実際に見ると考えていたより狭いものでした。しかし、広さを感じさせる展示でしたが、うまく熱帯雨林のゴリラの生息地が再現されていました。こちらでもガラスを用いて至近距離からゴリラを見ることができるようになっていました。

もう一つの素晴らしい展示はノーザン・トレイルという極北の展示で、ハイロオオカミ、ハイログマなどツンドラからタイガの動物が展示されていました。圧巻はハイログマとカワウソの展示でした。ビューイング・シェルターからはハイログマとカワウソが水中を泳ぐところを見ることができます。カワウソが水中を泳ぎ回ったり、陸上を駆け回る姿はいつまで見ても飽きることはありません。しばらくカワウソの動きを楽しんでいると後ろの岩組みに飼育担当者が現れ、あちこちに餌を撒きました。飼育担当者が視界から消え去ると、シロイワヤギが餌を食べに現れました。前には水のなかで戯れるカワウソ、その背景ではシロイワヤギが餌を食べています。シロイワヤギのいる岩場とカワ



カワウソの展示と背後のシロイワヤギ

ウソの展示場の間には深い堀があるのですが、全くそれを感じさせません。周囲は寒帯の植物で埋め尽くされており、本当に自然以上に自然らしい風景ができていました。シアトルの気候が寒帯の植物の生育に最適であることは言うまでもありませんが、それを差し引いても素晴らしいバイオーム展示でした。

その他熱帯アジアの新しく建設されたオランウータンの展示もすばらしいものでした。ゴリラと異なり、樹上生活をするオランウータンを見せるため高い位置に板張の観覧通路を作り、木道から樹上



樹上のオランウータン

のオランウータンを見るように作られていました。寝室内にはボルネオのオランウータンのリハビリセンターの給餌台が作られていました。屋内寝室もうまく展示のシーンの中に取り込む工夫がなされていました。

次にタコマのディファイアンス岬動物園を訪れました。タコマはシアトルよりずっと小さな都市でシアトルから南に車で1時間あまりの近距離にあります。小都市であるタコマは大都市のシアトルと役割分担をして特徴ある動物園を作っています。シアトルでは見られない極北の展示が有名です。

その中でホッキョクグマの展示はたいへん有名で、写真などで何度も見たことがありましたが、実際に見た印象は意外と狭いと感じました。それだけうまく空間設計され、限られた敷地を最大限に有効に利用しているということなのでしょう。

通りいっぺんの氷山を模した展示場に展示されている日本のホッキョクグマの展示に



見慣れている私には、背景にタイガの針葉樹林をおいた展示は目新しいものでした。

一連の展示にはセイウチ、ニシツノメドリなどの海鳥、ラッコ、ホッキョクギツネの展示も含まれており、とてもすばらしい展示でした。

ハダカデバネズミが新着動物として紹介されていました。ほんの数メートルの小さなケース展示でしたが、うまくトンネルが配置され動物を良く見られるようになっており、地上部には植物も植えられていました。小さな動物園は小さいなりに工夫がされており、とても感心しました。

つづく

(飼育課：榊原 安昭)

動物相談

入園者の皆さんが、日頃思っている動物についての疑問や、飼い方そして治療の仕方など色々な相談を受けました。



みんなで遊ぼうコーナー

公園内では大阪市婦人レクリエーションクラブの皆さんが輪投げ、クラフト、折り紙など昔懐かしい遊びで大人から子供まで楽しませてくれました。



秋の動物と花のフェスティバル'97

(管理課：萩原 祐二)



動物君 こんにちは!!

飼育係の皆さんが、担当動物の餌や糞などを見せて、その動物をお客さんに当ててもらいました。

ジャズバンド演奏

公園内水上ステージでは、ジャズやソウルの生演奏が行われ、特に大人の方に楽しんでいただきました。



クイズゲーム

動物園内野外ステージでは、大阪動物園ボランティアの皆さんによるクイズゲームが催され、子供たちも大喜びでした。



ぬいぐるみショー

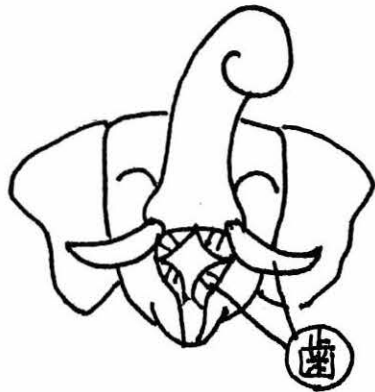
歌うおねーさんとぬいぐるみショーでは、子供たちが知ってる歌をおねーさんが歌うと、元気いっぱい歌ってくれました。



動物 なんでも 相談

ゾウのはなし

Question 1. ゾウさんの歯は、はえかわるの？



Ans.

ボクたちの歯はキバと臼歯(人間でいう奥歯
上下に2本ずつある)あわせて6本あるんだ。
臼歯は奥から前に向かって生えていて古い歯が
新しい歯におされて前に移動してぬけてくんだ。
臼歯は一生のうち各々が5回ずつ新くなるんだ。

Question 2. 暑いときはどうするの？



Ans.

ボクたちはみんなのように汗をかかないんだ。
そのかわりに別の方法で体を冷やすんだ。
よく耳をバタバタと動かすのはね、耳には血管が
たくさん集まっていてバタバタと動かすと耳の血管が
冷えて体の熱を冷やすんだ。あと体のしわに
水をためることができて皮膚が乾燥してきたら、
しわを開いて水を吐いて皮膚を湿らせるんだ。
ボクたちにとって体のしわはとても大切なものなんだ。



[構成/絵] 管理課：佐藤紀子

10/6. 7月3日に生まれたレッサーパンダの赤ちゃんが餌の竹を食べるのを確認しました。また、11月1日の一般公開に向けて、休園日毎の屋外展示練習を始めました。

10/7. ヤマドリペアを高松市の栗林公園動物園に贈りました。

10月8日 モモイロ



ペリカンの羽を切りました。展示場の構造上、強風により他へ飛んでいく可能性があるため、年に2~3回実施しています。

10/9. ヒョウモンガメが産卵しました。

10月12日 今年の春から夏にかけて募集した天王寺公園



と動物園の風景や動物を対象とした写真コンクールの表彰式を行いました。動物園部門では森内正巳さんが、公園部門では井上真由美さんが市長賞を受賞されました。

センダイムシクイとキジバトを各1羽保護しました。

10/15. アブラコウモリを1頭保護しました。

10月16日 昨年10



月に生まれたスナドリネコの赤ちゃんが大きくなったので、母仔に父親を加えた3頭の同居展示を始めました。

10/17. サバンナモンキーが1頭生まれました。

10月20日 気温が低くなってきたので、夏の間冷房展示



室で飼育していたオウサマペンギン、イワトビペンギン、マカロニペンギンを屋外展示場に移動させま

今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY



した。

10/22. 今月12日に保護したセンダイムシクイが元気になったので、自然復帰させました。

10/23. シュバシコウ(ヨーロッパコウノトリ)を姫路セントラルパークに4羽、みさき自然公園動物園水族館に3羽、宝塚動植物園に2羽と鹿児島市平川動物公園に1羽贈りました。

10/24. アカカンガルーが1頭生まれました。

10月25日 新しいキジ舎がオープンしまし

た。新キジ舎は、動物園の改造計画によって現在のキジ舎近辺にサイ舎を建設するために建てたものです。



10/26. グラントシマウマの赤ちゃんが1頭生まれました。

10/27. 昨年の10月に生まれたアミメキリンのメス“ジャネット”を高知県立のいち動物公園に送りました。

10/28. フロリダアカハラガメが2頭ふ化しました。

10/29. ハイタカを1羽保護しました。

■お知らせ■

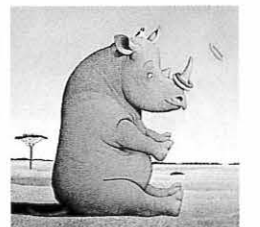
●天王寺動物園

★1月2日・3日(の両日)

天王寺動物園特製
カレンダープレゼント

先着500名/日
新世界ゲート
天王寺ゲート

★1月3日
新春餅つき大会



愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間とは？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー

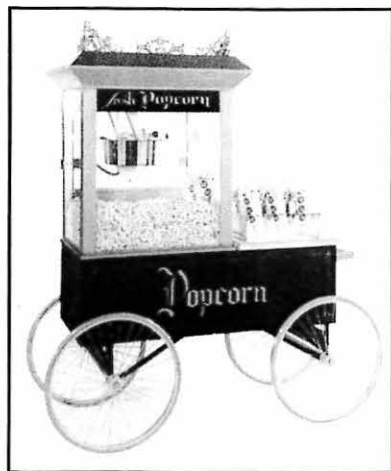
むし くらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

新・きれいな色 FUJICOLOR SUPER G ACE 400



カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031



平岩米吉著

ニホンオオカミの生態と歴史の集大成

狼 — その生態と歴史 —

平岩米吉[著] A5判 308頁 定価2,678円(税込)

ニホンオオカミは今もどこかで生きのびているのか——。狼と生活をともにした実体験を基盤に、数十年にわたり収集した正確な資料と生態学の眼をもって、ニホンオオカミの特徴や大きさ、性質などを分析。今も根強く残っている残存説を検証するとともに、絶滅へといたる歴史をも詳述する「ニホンオオカミの正史」。

築地書館 〒104 東京都中央区築地2-10-12 TEL 03-3542-3731 FAX 03-3541-5799 振替 00110-5-19057
◎ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。(直接郵送時の送料は一律400円です。)

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

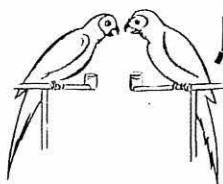


オールカラー
500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201



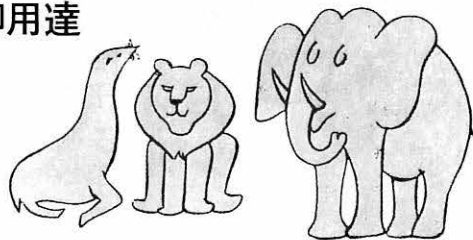
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ指定会社)
Coca-Cola & Coke は The Coca-Cola Company の登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 30円

動物園内での
お食事、
ご休憩は

動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973



お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



..... LOTTE

みんな大好き

ゴアラマテ

〈チョコレート〉 〈ストロベリー〉

365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさはそのままに、カルシウムの量を600mg（成人1日あたりの所要量）までアップさせた、雪印毎日骨太。日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召し上がりください。



雪印

雪印毎日骨太

300ml・100円／希望小売価格（税別）



一日
愉快地
たのしめる

◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。



久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1997年12月10日発行（毎月10日発行）第33巻 第12号（通巻388号）

編集 / 大阪市天王寺区動植物園事務所
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 伊東重朗
印刷所 / 株式会社 松村善進堂

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 大阪 (06) 7 7 1 - 0 2 0 1
振替口座 00930-2-37823

編集委員 { 井坂 進/馬詰好文/増野悦敏/中川哲男/藤田四郎/長谷川敏昭/落合正彦/宮下 実/榊原安昭/森本委利/高橋雅之/市川久雄
長谷川貞雄/中上正幸/佐藤紀子/萩原祐二/竹田正人/高見一利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/村上勇一/西村慶太/山元貞幸 }